



よこはま プロバス通信

No3 2011年6月発行

<http://yokohama1probus.web.fc2.com/toppage.html>

情報委員会・編集委員

情報委員会所在地：横浜市中区港町3-13番地 弁慶内 電話：045 - 651-3643

皆で翔き、 幸福なる人生を！

横濱プロバス倶楽部 会長 加藤 武

先ずは、去る3月11日に発生した未曾有の「東日本大震災」にあわれた方々からお見舞いを申し上げますと共に、不幸にもお亡くなりになられた多くの方のご冥福をお祈り申し上げたいと存じます。

さて、私たちの倶楽部は本年1月に創立10周年を迎え、この1年間創立10周年記念の年として、記念式典・コンサート・祝賀レセプションをはじめ、会員の一泊親睦旅行、記念誌の発行 会報誌「よこはまプロバス通信」の定期発行 倶楽部のたすき作成、組織の拡張・充実～会員の倍増・活動の活性化運動～等を記念事業として掲げ実施してきましたところ、役員の方々のご尽力並びに会員諸兄弟のご協力により、いずれも盛会・すべての事業が行うことが出来ました。

また、記念式典等時に当倶楽部が呼びかけて東日本大震災義援金募金を実施しましたところ10万円の多額なご協力をいただき事が出来ました。皆さん方のご協力ありがとうございました。

さて、創立10周年の記念すべき年度の幕引きに当たり、記念すべき年が大いに盛り上がり、クラブらしい倶楽部に成長したことを誇りに思うとともに感謝いたしております。

これまでの10年を糧に次なる10年に向かって、

- (1) 会員一人一人が、相互理解を深め、より一層のコミュニケーションを図ることにより皆が仲良しで、楽しい倶楽部にしよう。
- (2) クラブに関する情報をはじめ、各種情報を会員間で共有することにより、会員個々の自発的な活動及び倶楽部全体の活性化を図ろう。
- (3) 倶楽部のメンバーに相応しい人に声をかけるなど、一人でも多く



の方が仲間になってもらう等プロバスクラブの輪を広げよう。

という三つの提唱を引き続きしたいと思えます。

現在では、人生八十有余年の時代と言われており、私たちプロバス倶楽部のメンバーはこれからの人生を悔いのないものにしたいと念じております。

私が人生のライフワークとして六十余年間活動しているボーイスカウト運動の大先輩であり、最も尊敬する初代総長の後藤新平先生が最後に言われた言葉ですが、「金を残して死ぬものは下だ。仕事を残して死ぬものは中だ、人を残して死ぬものは上だ。」と。時代の差はあるにせよ、皆さんはどうお考えでしょうか。(注：ボーイスカウトの前身の少年団日本連盟は大正11年4月に結成)

年輪を重ねこれからの人生を如何に過ごすかということは、極めて大切なことであり、お互いに真剣に考え、行動すべきではないでしょうか。

それには何か一つでもよいから目的をもって行動することが肝要ではないでしょうか。何か目的をもって翔き、そのよき友人・知人同志で仲良く幸福な人生を過ごせたら、とても素敵なことだと思います。その一つがプロバスクラブ活動では如何でしょうか。

最後になりましたが、私たちの現執行部は間もなく任期満了になります。この間会員諸兄弟のご協力並びに私を支えていただいた役員のみなさんに心から感謝申し上げます。会長在任中は、プロバス倶楽部活動に専念ができましたことを心から、「ありがとう！」と申し上げたいと存じます。

今後は微力ながら立場を変えて倶楽部のために引き続き尽力していきたいと存じます。

諸兄弟と共に翔き、今後も幸福なる人生を共に送りたいと存じます。

弥 栄

新会員紹介

原田 正成
(はらだ まさしげ)
横浜市戸塚区汲沢町

豊岡 和子
(とよおか かずこ)
東京都江東区三好

中村 芳之
(なかむら よしゆき)
横浜市栄区桂町

東日本大震災義援金募金

ご協力有難う
ございました

去る4月8日の「横濱プロバス倶楽部創立10周年記念行事」の際に行われました標記募金について、会終了後加藤武会長はじめ全日本プロバス協議会の金森正夫会長、吉川哲朗幹事長立会いの下確認をいたしました結果、91,050円でした。

その後の理事会で8,950円を当倶楽部として協力することとし、総額10万円を4月20日神奈川新聞厚生文化事業団へ「神奈川県プロバスクラブ連絡協議会」として寄託いたしましたのでご報告いたします。

< 3面に写真掲載 >

横濱プロバス倶楽部
会長 加藤武

同行者：幹事萩原信吾
会計小磯智功
会計監査森山功



横濱プロバス倶楽部創立10周年記念 記念式典・コンサート・祝賀レセプション

兼 神奈川県プロバスクラブ連絡協議会 第5回親睦交流会

2011年4月8日 横浜中華街・重慶飯店別館にて

第1部 記念式典



創立以来「横濱プロバス倶楽部」発展に貢献されてきた五氏を記念表彰。左から佐藤博、乙幡重治、松田和、加藤義一、岩城孝子の各氏

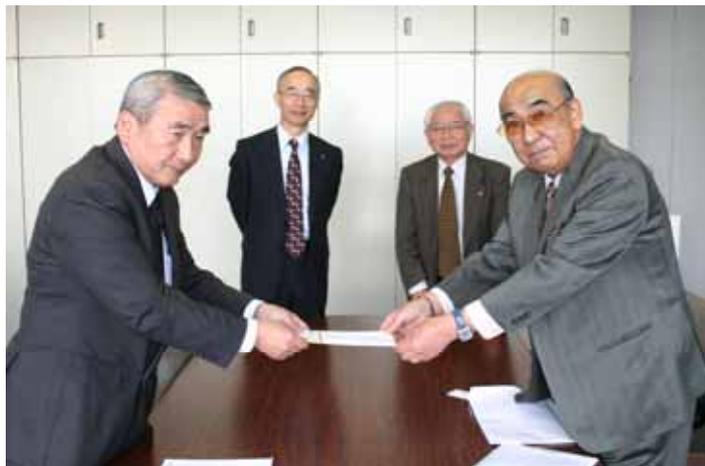


神奈川新聞
寄託
0462220815
(20日・本社扱い)

**東日本大震災
救済金**

▽県プロバスクラブ連絡協議会110万円
▽海南区日岡山。4月8日に開催した
横濱プロバス倶楽部創立10周年記念式典
・コンサート・祝賀レセプションの際の
募金。

％ 寄合費 91,050円
振替口座 8,950円
収済金 計 100,000円



財団法人神奈川新聞厚生文化事業団理事長千葉信行氏
(左)に義援金を寄託



全日本プロバス協議会金森会長
(左)と吉川幹事長



第2部 コンサート
中国琵琶 陳麗華(ちんれいか)コンサート
＜中国上海生まれ、中国琵琶奏者・歌手＞
ピアノ伴奏 大島 春夫



10周年という節目の年を、心のこもった、和やかな集まりによってお祝いし合うことの素晴らしさを実感いたしました。お祝いの会では、未曾有の巨大地震となった東日本大地震と大津波の壊滅的な被害により落ち込みがちな気持ちを奮い立たせる意味も込めて祝宴を開催されたとの心意気には復興への活力と元気を頂くことができました。本当におめでとう御座います、そして元気よくスタートされました。次の年度へ共に向かいましょう。

10年前、2000年8月30日横浜山手ロータリークラブの第410回例会では松田和会員による「いよいよ発足プロバスクラブ」と題した卓話が行われた事が記録されています。1997年の地区協議会での発議により検討が始まり、社会奉仕委員会が中心となって2590地区で初めてのプロバスクラブ設立に向かって具体的な動きが進みました。当初の頃はプロバスクラブの意義も活動についても暗中模索の状態であった東京八王子プロバスクラブなど先輩クラブの実態を見学したりの助走期間がありました。今日まで継続的に支援とご協力をさせていただいておりますが、今となっては10年間



横浜山手
ロータリークラブ
金子修司会長氏

このお付き合いにより新しい輪も広がり諸先輩のお元気で楽しい豊かな人生を良いお手本とさせていただいております。

私達の横浜山手ロータリークラブも次年度は創立20周年を迎えることになりました。大場次年度会長を中心に会員同士の親睦を深め、結束を強める為に様々な企画が進行中です。今後とも豊かで味わいの深い人生を共に歩み、社会の為に多くの奉仕活動を実践したいと願っております。



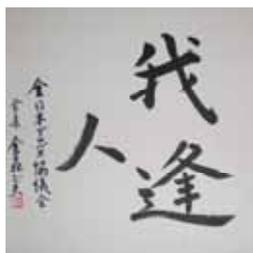


全日本プロバス協議会
金森正夫会長氏

賀を迎ふ 和の十年（とうとせ）や 春の暮

横濱プロバス倶楽部様が創立10周年記念式典を開催され心からお祝い申し上げます。

貴倶楽部様は平成13年1月30日に横浜山手ロータリークラブ様がスポンサーでMM21ロータリークラブ様のご協力を得て神奈川県下で第1号のクラブとして全国では64番目に名門クラブとして誕生されました。



歴代の会長様をはじめ役員皆様のご努力により此処に10周年の節目を迎えることができ昨年会長に就任された加藤会長様のリーダーシップのもと荻原幹事様をはじめ役員皆様が今まで以上の活性化を図り内容の充実に努め、楽しいクラブ作りにと目標を掲げられ全員が一つ心になって目標に向かってご活躍中で今後更なるご活躍されますことをご期待いたします。

お祝いに「我逢人（がほうじん）」と云う言葉をお贈りいたします。「我（われ）人に逢（あう）なり」。人と人との出逢いの尊さを三文字で表した言葉です。人との出逢いは何かを生みます。出逢いは貴君を広く深く成長させてくれます。是非沢山の人と出逢うことを大切にしてください。

会員皆様のご健勝とご多幸を祈念し名門横濱プロバス倶楽部様が益々ご発展されることをお祈り申し上げお祝いの詞といたします。

論語

知之者不如好之者（之を知る者は之を好む者にしかず）好之者不如樂之者（之を好む者は之を楽しむ者にしかず）

仕事にせよ、稽古にせよ、物事のすべてはたしかにこの通りであることを、私たちは経験を通して実感しています。

楽しむという言葉が三段階の上にあるのは何故でしょうか。楽しむことには飽きが来ません。心身ともに楽しくなります。楽しむ者が、一番長く続きます。そして、深く味わうことができるのです。

横濱プロバス倶楽部で楽しんで下さい。

禅語

我逢人（がほうじん）（人と逢うことから全てが始まる）人と人との出逢いの尊さを三文字で表した言葉です。心と心との出逢い、物と物との出逢い。人と物との出逢い。出逢いこそ命です。自分だけで考えて、自分だけで行動していたのでは見つからないことがある。だからその人との出逢いこそがすべての始まりです。

構えた格好でも、些細な偶然でも、人との出逢いは何かを生みます。人は自分と違う領域を持って生きている。だから出逢いはあなたを広く深く成長させてくれます。人と逢うことを大切に、人と逢える場を大切に、人と逢う姿を大切に。



2月例会開催（第114回）

平成23年2月18日（金）午後2時から、進交会館にて第114回例会が開催されました（27名出席）。

加藤会長挨拶の後、新入会員の降旗公英さん、岩田慎一さん、本橋ふみ子さんの紹介があり、その後、恒例の誕生月会員（乙幡、西山、櫻井会員）への祝い品贈呈が行われました。

2月の会務報告（理事会協議事項）は、以下の通りです。

（1）創立10周年記念行事・記念誌原稿作成状況について

（2）会報紙「よこはまプロバス通信2号」を発行・配布

（3）組織拡充（会員倍增運動）の推進について 以上。

2月の会員放談は、「私のボランティア活動」と題して、加藤道子会員から長い活動の苦労話と楽しさについてお話頂きました。例会終了後、2月は特別な事業予定もないことから、会長の提案で、ビール付き「サロン」を開催し、4時まで懇談を行いました。

3月例会開催（第115回）

平成23年3月11日（東日本大震災の日）12時から、第115回例会が相生本店で開催されました（23名出席）。

10周年記念事業の準備状況などに触れた加藤会長の挨拶のあと、3月誕生月の会員はいない旨中村会員委員長から報告があり、次の通り会務報告がありました。

（1）創立10周年記念行事・記念誌の作成状況について

（2）組織拡充の推進について

（3）例会欠席者の報告・コメント

次に創立10周年記念行事の実施要領について、加藤実行委員長から説明があり、各会員の当日の役割分担を確認しました。

特別放談は「相模湾の海と魚の魅力」と題して、石戸谷博範農学博士（神奈川県水産技術センター・相模湾試験場、水産工学チーム専門研究員）から、貴重なお話を伺いました。相模湾の豊かな漁業資源も、森まで含む周辺環境の恵みであることを、歴史的経過を辿りながら分かり易く講演されました。

3月の歌「花」を合唱。2時過ぎに閉会しましたが、同会場にて10周年記念行事に関する臨時理事会を開催中、巨大地震に見舞われました。

会員の皆様には、大変なご苦労をして帰宅されたとその後伺いましたが、全員無事で何よりでした。

4月8日 創立10周年記念行事開催

（第116回例会会員30人、来賓等42人計72名出席）

東日本大震災に伴い開催の可否を検討した中で、被災者支援の思いを込めて開催を決定し、72名の参加を得て盛大に実施することができました。

冒頭、10年間の会員物故者17人並びに今回

の大震災の犠牲者に対し全員で黙とうを捧げ、そのご冥福を祈りました。

第1部の記念式典では、横浜山手ロータリークラブの金子会長と全日本プロバス協議会の金森会長から温かな祝辞を頂き、創立時からの功労者5名の方に、加藤武会長から顕彰を行いました。

第2部の「中国琵琶 陳麗華コンサート」も、今回の犠牲者の鎮魂と被災者を励ます曲目を演奏し、また歌っていただき、会場は感動の渦に包まれ、予定時間での終了が惜しまれました。

第3部「祝賀レセプション」は、神奈川県プロバスクラブ連絡協議会第5回親睦交流会を兼ねての開催としましたが、抽選による着席の結果、大いに交流が進み、また重慶飯店の特別料理や中国酒にもご満足いただけ、時間を忘れるひと時となりました。

次回交流会担当クラブ「横浜港南台プロバスクラブまろにえ」、小野里会長からご挨拶を頂き、当倶楽部河崎前会長による各クラブと被災者へのエールで閉めとなりました。

全日本PCの会長・幹事長もお誘いし、青木会員の「弁慶」で2次会・反省会をいたしました。関係者の皆さま、お疲れ様でした。

5月例会開催（第117回）

平成23年5月13日12時から、第117回例会が相生本店で開催されました（30名出席）。加藤会長から、冒頭のあいさつの中で、10周年記念行事始め、会員倍增・経理改善など1年間の活動の簡単な総括と東日本大震災義援募金の結果報告がありました。

また、入会予定の3氏（中村芳之、清水和子、志津笑美子の3氏）が、ビジターとして参加されましたので、会長から紹介がありました。

次に、4月（松下孝氏）、5月（加藤武、平野正弘、岩田慎一の各氏）誕生月の会員へお祝い品「手動付き懐中電灯」が贈呈され、時節柄大変貴重なものと喜ばれました。

5月会務報告（理事会協議事項）は以下の通りです。

（1）創立10周年記念行事の評価

（2）東日本大震災義援募金結果

（3）例会開催日に関するアンケート結果（従前通り金曜日）

（4）東京多摩プロバスクラブとの交流会（5月15日）について

（5）入会申込書・会員台帳整備

（6）会報紙3号の発行について 以上。

5月会員放談は、「苗字入門」と題して、中村實氏にお願いし、その博学の一端を開陳していただきました。知らねばまず読めない苗字から始まり、日本の苗字が、中国・韓国に比し、桁々違いに多いこと、全国民が苗字を持ったのは明治8年からで、「田」や「村」など土地の自然由来が多いこと等々について話され、時間の関係で割愛部分が惜しまれましたが、「苗字を深く理解して人間関係に役立てましょう」とのことでした。

月の歌「背くらべ」を合唱し閉会しました。



特別放談「相模湾の海と魚の魅力」との演題で石戸谷博士の 슬라이ド を使って講演



< 理事会等報告 >

原則として毎月第3金曜日、午後2時から進交会館6階みなと倶楽部にて「理事会」を開催し、倶楽部の運営に当たっております。

2月定例理事会 (2月25日、出席者10名)

3月第115回例会の内容及び10周年記念行事説明会について

創立10周年記念誌作成状況について
組織拡充(会員倍増運動の推進)について
創立10周年記念行事実施準備について

3月定例理事会 (3月18日、出席者10名)

4月116回例会・創立10周年記念式典について

創立10周年記念誌(4月8日配布)作成状況について

組織拡充(会員倍増)運動の推進・新入会員の入会について

理事会閉会后、**創立10周年記念行事実行委員会**を開催。

理事会終了後、現役員等を含めた拡大実行委員会を開催。改めてプログラム等の内容及び業務分担を確認。4月1日に開催会場の重慶飯店別館で実行委員による現場確認を行うこととした。

4月定例理事会 (4月15日、出席者10名)

5月第117回例会の内容確認について

6月第118回例会(総会)及び開催通知(5月例会時に通知)について

プロバス通信第3号の発行について

組織拡充(会員倍増)運動の推進、新入会員の承認について

理事会終了後、「次期役員候補者(Cグループ)会議」開催。

5月定例理事会 (5月20日、出席者、18名)

6月第118回例会(総会・懇親会)の内容について

新入会員の入会承認について

「よこはまプロバス通信」第3号の発行(6月9日発行)について

第118回例会・2011-2012年度第12回総会の議案等について

7月第119回例会の内容及び開催通知について

東京多摩プロバスクラブとの姉妹クラブ提携について

* 次回6月17日理事会は新旧で事務引き継ぎを行うこととしました。

東京多摩プロバスクラブメンバーが来横

去る5月15日、以前から申入れがありました東京多摩プロバスクラブのご一行が来浜、当倶楽部との親睦交流会が行われました。

当日は親睦交流及び一泊旅行に相応しい快晴に恵まれて、鴻池会長、押谷幹事、滝川研修・親睦委員長はじめ15名の方々がマイクロバスで来られ、山下公園を散策の後、中華街の大新園で昼食会を兼ねた交流会となりました。当方からは加藤会長、荻原幹事、中村会員委員長及び森山会計監査が出席をし、双方の出席者の紹介、中村会員委員長の横浜紹介の話などがあり、最後は「東京多摩プロバスソング」を合唱。楽しい交流会となりました。

その際に鴻池会長から「これを契機に姉妹クラブになりませんか」との提案があり、加藤会

長が受けて「私個人としては大賛成、後日理事会に諮り正式に決めたい」ということになりました。その後中華街・横濱媽祖廟、アメリカ山公園、外国人墓地、港の見える丘公園等をご案内。この道中中村会員委員長の種々にわたる解説に多摩の皆さん方は大感激、大喜びでした。

午後2時30分頃、多摩の皆さんと再会を約してお見送りをし、ご一行は、箱根での一泊研修・親睦会に向かわれました。



東京多摩プロバスクラブメンバーと交流親睦会

東京多摩プロバスクラブ**鴻池敬和会長談話**

わが東京多摩プロバスクラブは「知恵と経験を生かし、地域社会に発信しよう」をスローガンに活動を展開しております。設立7年目となる昨年9月に「多摩プロバスクラブフェア2010」を開催、成功させました。このフェアは当クラブにとって初めての試みで、会員自身の活動を精一杯開陳することを通じて、わがプロバスクラブの活動内容を広く認知してもらおうと

するものでした。そのために会員全員で大いに努力することがスローガン「知恵と経験を生かし、地域社会に発信しよう」に沿うことになると考えました。「プロバスクラブを活性化するためにどのようなことをすればよいか?」「おのずと人が集まってくるようなクラブにするにはどのようなことをすればよいのか?」は各プロバスクラブが抱える共通のテーマだと思えます。全日本プロバス協議会からも最近「アンケート」としてこのような質問が寄せられてきていますが、わが「多摩プロバスクラブフェア2010」開催はこれに対する一つの回答でありました。また「環境問題プロジェクト」

は、いまや地球的規模の課題である二酸化炭素の排出削減について、当クラブとして具体的にどのように取り組んでいくか引き続き追求していきたいと考えています。わがクラブでは、各委員会や各サークルを中心にさまざまな活動を展開しております。そのことは、ホームページや東京多摩プロバスニュースの発行を通じ地域社会に広く発信しております。生涯現役で、多彩なプロバスライフを楽しみつつ、大いに地域社会に発信し貢献していく計画です。横濱プロバス倶楽部様とも更に友好・交流を深め共にクラブの発展を図っていききたいと念願しています。(会員数36名)

港湾都市横浜 第2話 <湾>



会員 中村 實

東京湾、相模湾などが神奈川県下ではよく知られているが「湾」と呼ぶのは、海面が陸地に入り込み、外海に向かって開かれている場所のこと。湾口、湾頭、湾内、湾奥、湾岸などの熟語もよく聞かれますが、湾浜という表現もある。

ところでご存じだろうか、固有名詞で「湾」という集落のあることを。県管理の第3種空港もあるが、定期船利用だと鹿児島港から約13時間の喜び(きかい)島西岸の中心集落。

同島は奄美群島の北端にあり、奄美大島の東約25kmの隆起サンゴ礁の低平な島で、面積55.7km²(都筑区の約2倍)人口約8,300人を擁する。

眼を海外に移すと、国境紛争が端緒となり開戦したイラン・イラク戦争(1980年)以来、湾岸諸国、湾岸戦争という言葉がしばしば報道されてきた。ペルシャ湾岸のアラブ首長国連邦、バーレーン、サウディ・アラビア、オマーン、カタール、クエートの君主制をとる6か国が地域協力機構GCC < Gulf Cooperation Council >を形成している。



湾岸線



湾岸道路は日本経済発展の象徴ともいえる。これで一気に千葉、東京、横浜間の物流や人の往来は進展した。羽田の国際化は「人」だけでなく「物」にも眼を向けたい

さて横浜にとっての「湾」は何と言ってもワンガンセンだろう。耳で聞いたことはあるが、何のことかといふわかる向きもあるかも知れない。ハンドルを握り京浜間を往復された方ならご存知の道路「湾岸線(湾岸道路)」だ。

東京・横浜間を走る大量の自動車によって発生する大渋滞を少しでも緩和、解消させる目的でこの道路は建造された。首都高速道路の一部としての「湾岸線(湾岸道路)」だ。横浜市金沢区並木のインターチェンジから62.1kmを隔てた千葉県市川市向谷までを結ぶ自動車専用道路首都高速湾岸線の一部で、中区本牧埠頭から鶴見区生麦までの4.5kmのことである。なお横浜ベイブリッジ(2層)の下段は国道357号(千葉市・横須賀市間)で湾岸道路と呼ばれている。

<次回連載は「<都>」の予定です>

<座談会・女性の時代>

加藤(武) 今一番ご高齢は加藤義一さん今年は90歳。昨年の記念1泊旅行にも参加。最後まで皆と一緒に楽しんでおられました。やはり年齢にあったプログラムを考える必要がありますね。

加藤(道) 入会1年。今期は例会副委員長をやらせていただきました。何が何だか分からないで来ました。マイナスではなくプラスの1年でした。今ではこの会を第1に考えています。出会いが素晴らしいです。それに皆さんの一言二言が素晴らしいんですね。「今日はこんな話を聞いてきたよ」とお友達に話しています。熱海の1泊旅行は楽しかった。

伊藤 私先月入会させていただいたばかりでまだ何も分かりませんが、皆さんとても素敵な方で今話を伺ってこの会に入れていただいて本当に良かったと思えました。これからよろしくお願いたします。

岩城 このところ女性会員が増えてうれしいですね。東野 まったくその通りで倶楽部活性化の第一歩は女性会員の今後の活動にかかっているように思います。伊藤 そうそう私も友人を一人お誘いしました、お名前は豊岡和子さん。ご自分で事業されています。

加藤(道) 凄いですよね、青木情報委員長さんのご紹介でさらに2人参加だそうですよ。

加藤(武) なんだか男性軍が圧倒されそうです。36名の会員の4分の1が女性になりますね。どうでしょう、いよいよ10周年を終え次の15周年、20周年を目指して女性サークルを発足させては如何でしょうか。高齢化社会での女性の役割を真剣に考える時ではないでしょうか。

岩城 さっそく理事会等でご検討いただき次年度の倶楽部発展の目玉にしたらどうでしょうか。



編集後記 オギャーと生れて満10歳。

加藤武会長のもと創立10周年の記念式典・コンサート・祝賀レセプションが開催されました。今号はその特集として写真を中心に8ページとし、第5回県下プロバスクラブ親睦交流会も兼ね、中国琵琶奏者・陳麗華さんのムードあふれるコンサート等楽しいひと時を過ごした模様をお伝えします。会員皆様の友情と絆がより一層深まったのではと。

過去に対するより良い判断は未来に対する決断(会の活性化)となり、いつも前向きに。

1年2か月に3度の手術。賞味期限の切れた吾輩でも、いつか何かでお役に立ちたいと!!

情報や人間やお金に有効期限を表示できたら、どうだろう。困るかな!!可笑しいかな!!

ある時はスライスライン フックライン 第4コーナーを回った今日この頃、友情に支えられたこの1年「満月や 感謝重ねし 日の暮らし」

本紙創刊号、2、3号と発行することができました。本当に1年間ご協力ありがとうございました。

(情報委員長・青木 伊平)